

平成 30 年 8 月 24 日

平成 30 年度病害虫発生予察特殊報（第 3 号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名 : メロン退緑黄化病
2. 病原ウイルス : ウリ類退緑黄化ウイルス (Cucurbit chlorotic yellows virus ; CCYV)
3. 作物名 : メロン
4. 発生地域 : 日高地域
5. 発生確認の経過および県外での発生状況

平成 30 年 8 月、日高地域の施設栽培メロンにおいて、葉に退緑、黄化症状を呈する株が発生した（図 1）。当所における RT-PCR 法による遺伝子診断の結果、CCYV によるメロン退緑黄化病であることが確認された。本病は九州全県（沖縄県を除く）、高知県、広島県、茨城県、静岡県で発生が確認されている。本県では、平成 26 年に CCYV によるキュウリ退緑黄化病を確認しているが、メロンでの発生は初めてである。

6. 病徴および被害

はじめ葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が拡大、融合しながら徐々に黄化する。さらに進展すると、葉脈部分を残して黄化する（図 2）。本病は定植直後から収穫終了時まで発病し草勢を低下させる。発病株では果実の肥大が不良となり果重および糖度が低下し、減収被害が大きい。

7. 病原ウイルスの性質および伝染

本ウイルスは、クリニウイルス属に属し、タバココナジラミ（バイオタイプ Q および B）により半永続伝搬（ウイルス媒介能力は数時間から数日間持続）される。経卵伝染、汁液伝染、種子伝染および土壌伝染はしないと報告されている。自然感染が確認されている作物はメロン、キュウリおよびスイカである。なお、接種試験では、ウリ科、ナス科、アカザ科など広範な植物に感染することが確認されている。

8. 防除対策

媒介虫であるタバココナジラミの防除対策を徹底するとともに伝染源の除去に努める。

- 1) 育苗期の薬剤防除および定植時の粒剤処理により、低密度時からタバココナジラミ防除を徹底する。
- 2) 施設開口部への防虫ネット（目合い 0.4mm 以下）展張、近紫外線除去フィルムの利用などにより成虫の侵入防止に努める。
- 3) タバココナジラミは寄主範囲が極めて広く、雑草にも生息するため、施設内および施設周辺の除草を徹底する。
- 4) 発病株は伝染源となるため、見つけ次第直ちに抜き取り、ビニル袋などに入れて完

全に枯死させてから処分する。

- 5) 施設栽培では、栽培終了後にすべての株を抜根した上で、7～10日間以上施設を密閉してタバココナジラミを死滅させ、施設外へのタバココナジラミの分散を防止する。



図1. 発病株



図2. 葉の黄化症状

担当：和歌山県農作物病虫害防除所 林  
電話：0736(64)2300